平成27年２月22日（日）

出雲遺跡・中古墳群現地説明会資料

調査場所　亀岡市千歳町字千歳

調査期間　平成26年８月25日～平成27年２月26日（予定）

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL http//www.kyotofu-maibun.or.jp

はじめに

今回の出雲遺跡・中古墳群の発掘調査は、主要地方道亀岡園部線（ 北々進）防災・安全事業に先立ち実施しました。調査地は弥生時代から中世までの集落遺跡である出雲遺跡と古墳時代中期の中古墳群の範囲に含まれています。なお、中古墳群は平成 18 年度に実施した国営圃場整備事業に伴う調査で新たに発見された古墳です。調査面積は全体で 1700 ㎡を測ります。

調査地は亀岡盆地東部の御影山山麓の扇状地の東から西へと傾斜する斜面上に立地しています。一帯には、古墳時代前期の出雲武式古墳（円墳、墳丘長 19m）や、中期の甲冑が出土した坊主塚古墳（方墳、墳丘長 34m）、盾持ち人形埴輪が出土した時塚１号墳（方墳、墳丘長 24m）、さらに後期の前方後円墳である国史跡千歳車塚古墳（墳丘長約 80m）など多くの古墳が分布します。また、北に約 1km の山麓には平安時代の延喜式内社で丹波一宮の出雲大神宮があります。

調査の概要

今回の調査では、出雲遺跡の中央部に 11 カ所の小規模な調査区（第２図北部調査地）と中古墳群周辺に 2 か所の調査区を設けて調査を実施しました。出雲遺跡では９区（第２図）において、平安時代後期～末期の幅３～４ｍの溝を検出しました。

２区では、中古墳群を構成する古墳時代中期の４基の方墳を確認したほか、平安時代末期～鎌倉時代前期の溝や柱列、土坑等が見つかりました。

２区の調査

中古墳群は、平成 18 年度の亀岡市教育委員会の調査で、一辺約 28mの方墳と推定されている１号墳を中心とする６基以上からなる古墳群として報告されています。今回の調査では、１号墳東辺の周溝を中心に調査し、その北側で３基の小規模な古墳を確認しました。1 号墳の調査では、墳丘の東辺と周溝（溝ＳＤ201）を検出しました。墳丘の東辺では、基底部を約 25m以上にわたって検出し、人頭大の石材を４～５段に積んだ葺石を確認しました。周溝（溝ＳＤ201）は、幅約６ｍ以上、検出面からの深さは約 1.4mを測ります。深さ約 0.8 mまでは中世の堆積層で、１号墳の周溝の上層は、平安時代末期～鎌倉時代前期に再掘削され、中世に溝として再利用されていたと考えられます。

周溝から出土した古墳時代の遺物はわずかでしたが、初期須恵器の器台や埴輪が出土しました。出土遺物から、１号墳の時期はおおよそ古墳時代中期中葉（５世紀）と推定されます。

さらに１号墳の北側では、Ｌ字状に屈曲する３基の小規模な方墳の周溝を確認しました。亀岡市教育委員会の調査で３号墳とされた方墳は、一辺約７ｍ前後の小規模な２基の古墳になることが新たにわかりました。なお、今回の調査では新たな古墳は発見できませんでした。

まとめ

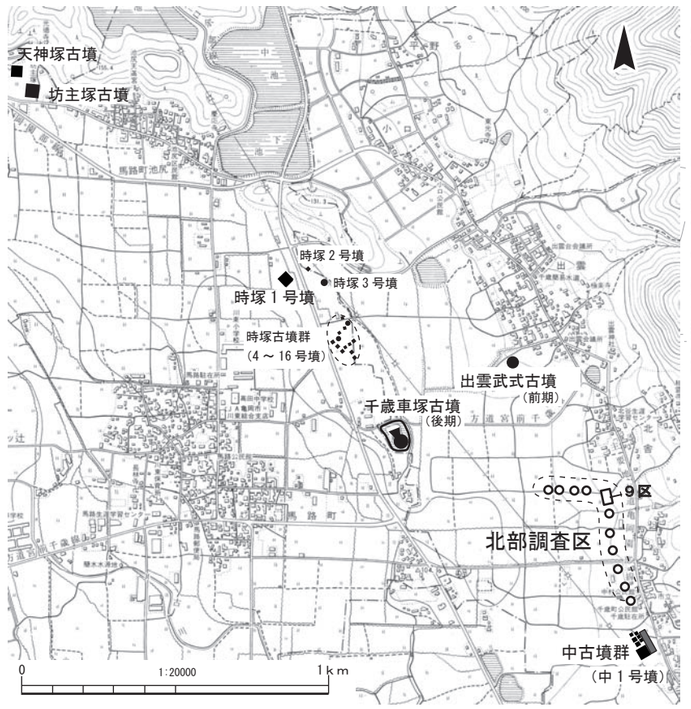
以下に、今回の調査成果をまとめます。

①中古墳群は、１号墳を中心に７基以上の方墳からなる古墳群であることがわかりました。

②中１号墳は、一辺約 28mの葺石・埴輪をもつ中期中葉（おおよそ５世紀中ごろ）の方墳です。

③中世には中１号墳の周溝は、再利用して方形の区画を作っていたようです。

第１図　調査地位置図（1/25,000）
（『亀岡市文化財報告書第78集』に加筆）

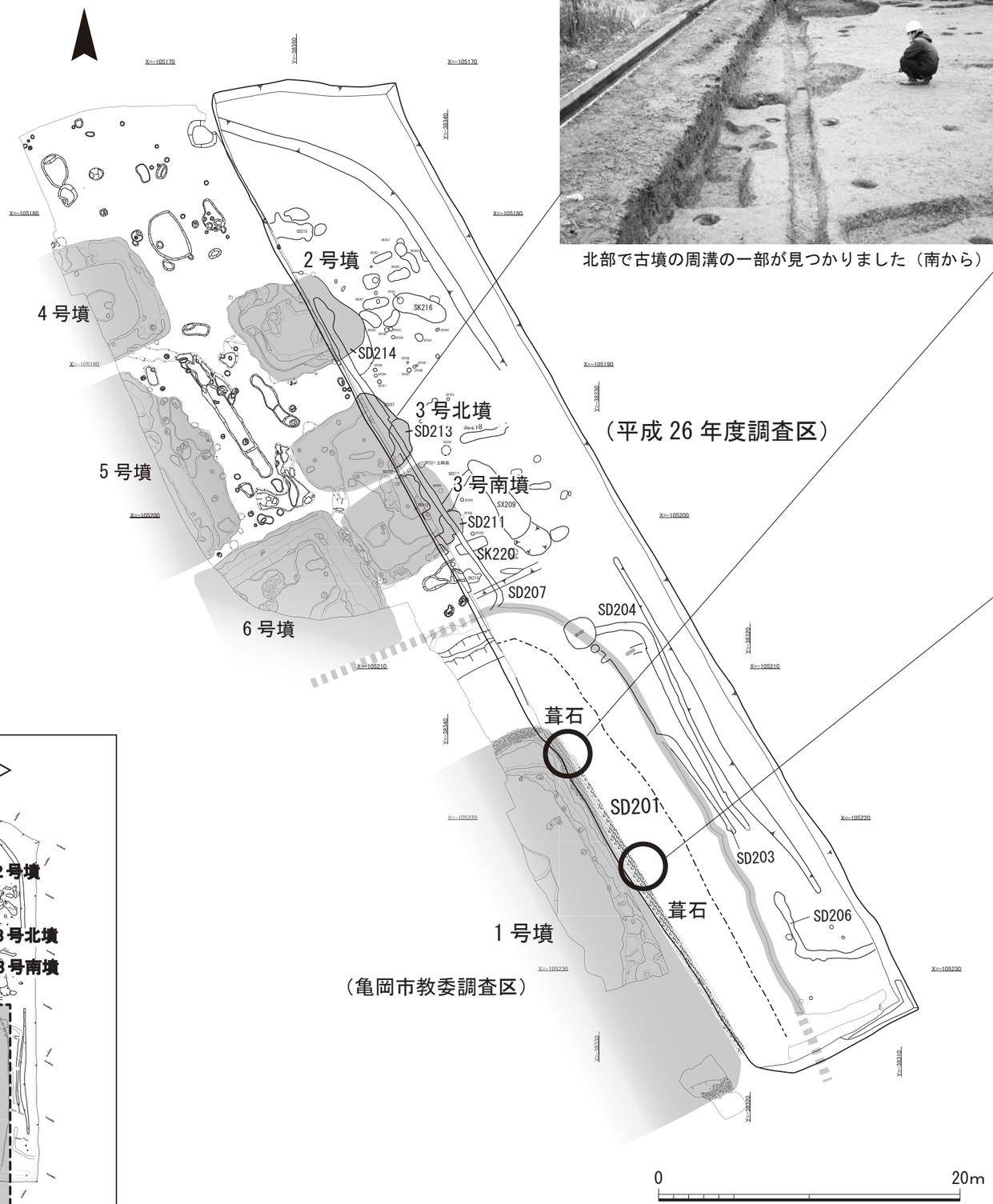


第２図　周　辺　古　墳　分　布　図

第３図　調　査　地　配　置　図

中１号墳の周溝の上層は中世に再掘削されています（南東から）

中世に再掘削された溝の下層には、古墳の葺石が見えます（南東から）



北部で古墳の周溝の一部が見つかりました（南から）

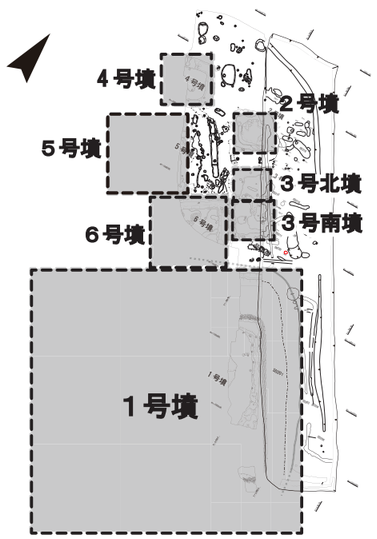
中１号墳の北東コーナー付近の葺石です（東から）

張り出し状に石材が集められた部分があります（東から）

葺石は４～５段に積まれています（北東から）

25m以上の葺石列が確認できました（南西から）

＜中古墳群 復元図＞



（ 墳丘長 28m）